

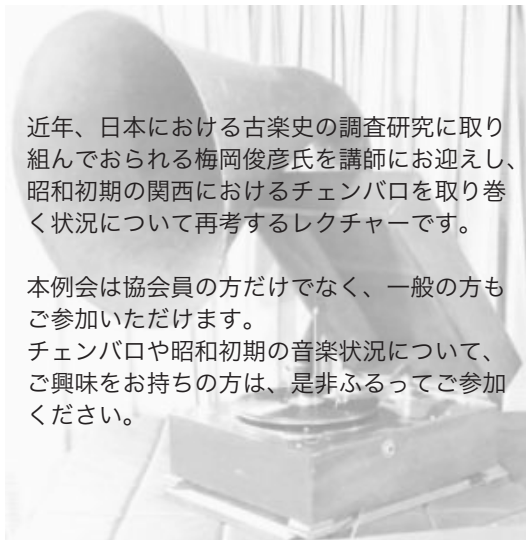


日本チェンバロ協会例会 2018 年度第 3 回 (通算 第 35 回)



「日本のチェンバロの歴史は関西から始まった！」

～昭和初期 我が国でのチェンバロブームを検証する～



近年、日本における古楽史の調査研究に取り組んでおられる梅岡俊彦氏を講師にお迎えし、昭和初期の関西におけるチェンバロを取り巻く状況について再考するレクチャーです。

本例会は協会員の方だけでなく、一般の方でもご参加いただけます。
チェンバロや昭和初期の音楽状況について、ご興味をお持ちの方は、是非ふるってご参加ください。

昭和 11 年神戸在住のスイス人 レネ・フランクが日本初と思われるチェンバロをドイツから入手し、関西で演奏活動を始めました。そしてその後、京都の中瀬古和が日本人初のチェンバロ奏者として舞台上がり、続いて大阪の永井静子もラジオに出演します。昭和 16 年には日本初の本格的チェンバロ奏者エタ・ハーリッヒ＝シュナイダーは来日直後にオケを率いて京阪神 3 か所で行サイタルを開催、9 月には大阪の相愛女専の教師に就任します。また、昭和 16 年末には早くも伊丹のピアノ工場の片隅でクラヴィコードも製作されたようです。このように、当時関西では東京を凌駕する熱いチェンバロ(古楽)ブームがあったと思われます。今回は当時の貴重な資料とレコードを使い昭和初期の関西でのチェンバロブームを検証いたします。1930 年英国製の大型蓄音器 (EMGmarkIX) を使っての当時の日本の愛好家達が愛聴した様々な古楽演奏レコードもお聴きいただけます。

2018 年 10/6 (土)

開演 15:00 (開場 14:30)

会場：テアトルラモー

兵庫県神戸市灘区深田町 1 丁目 1-11
ハニービーガーデン

JR 神戸線「六甲道駅」から徒歩 5 分

<http://collegiumrameaukobe.jp/theatre-rameau/>

Map

講師プロフィール
梅岡 俊彦

兵庫県出身。ピアノ調律工房勤務時代からチェンバロに興味を持ち 1985 年に独立。日本だけでなく海外の工房や博物館を訪ね独学で技術を習得、現在は東京と神戸に工房を持ち、各種タイプのチェンバロに加えてフォルテピアノ、ポジティブオルガンなど 10 数台の楽器を携え国内外の数多くの演奏家のコンサートに楽器を提供し、調律で参加。
近年は日本の古楽史の調査研究に取り組む。

入場料

日本チェンバロ協会 会員・学生会員：無料
日本チェンバロ協会 サポーター：1,000 円
一般：2,000 円
一般 学生：1,000 円

☆ 当日受付にて、会員証、学生証のご提示をお願いいたします。

<ご予約・お問合せ> 日本チェンバロ協会 例会係

E-mail : cembalo_events@yahoo.co.jp

☆ご予約の際は「第 35 回 (10 月 6 日) 例会申し込み」とタイトルに明記の上、ご送信ください。

日本チェンバロ協会ホームページからも申し込みいただけます

<https://japanharpsichordsociety.jimdo.com/>

Tel. : 050-3575-1282 (くらび) [受付時間：13:00-22:00 / 本例会に関するお問合せ対応のみ]

◆ 主催：日本チェンバロ協会 ◆ 協力：テアトルラモー

日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society